アラビア半島の新石器化
—サウジアラビア北西部、マスィユーン遺跡の第1〜3次発掘調査(2022-2023)—

藤井　純夫　金沢大学古代文明・文化資源学研究所特任教授
久米　正吾　金沢大学古代文明・文化資源学研究所特任助教
安倍　雅史　東京文化財研究所文化遺産国際協力センター主任研究員
足立　拓朗　金沢大学古代文明・文化資源学研究所教授
岡崎　健治　鳥取大学医学部助教

Neolithization in the Arabian Peninsula: Excavations at Masyoon, Northern Hijaz (2022-2023)

FUJII, Sumio　Project Professor, Institute for the Study of Ancient Civilizations and Cultural Resources, Kanazawa University
KUME, Shogo　Project Assistant Professor, Institute for the Study of Ancient Civilizations and Cultural Resources, Kanazawa University
ABE, Masashi　Chief Researcher, Tokyo National Research Institute for Cultural Properties
ADACHI, Takuro　Professor, Institute for the Study of Ancient Civilizations and Cultural Resources, Kanazawa University
OKAZAKI, Kenji　Assistant Professor, Faculty of Medicine, Tottori University

1. はじめに

2017年3月に始まったタブーク州北部、ワディ・グバイ中・上流域における先史遊牧民遺跡の総合調査は、2021年度に実施した前期青銅器時代ダム群の発掘、翌2022年度実施の銅石器時代カイト群の発掘を以って、一旦終了した(藤井ほか 2022、2023)。2023年度は約50km西に移動し、ヒジャーズ山脈の東山麓に位置するマスィユーン遺跡(Masyoon)を、3月と6月の2回にわたって発掘した(Fujii et al. 2023a, 2023b)。2022年の後半に実施した短期の予備調査を含めると、都合3回の発掘である。一連の発掘調査によって、この遺跡が、先土器新石器時代B前期(Pre-Pottery Neolithic B前期、略してPPNB前期)から同中期にかけて営まれた、アラビア半島最古の新石器時代集落であることが判明した。

2. 遺跡立地と調査経緯

マスィユーン遺跡は、ヒジャーズ山脈北部の最高峰、ロウズ山(Jabal Lowz)の東側山麓に広がる花崗岩丘陵と、この地域の主要水系であるワディ・アビヤドとに挟まれた緩斜面の下端に位置し(**図1**)、その集落面積は約0.3〜0.5haと推定される。この遺跡は、1970年代後半から実施された国家的な広域分布調査(Comprehensive Archaeological Survey Program)によって確認され、その表採遺物から新石器時代の遺跡と同定された(Ingraham et al. 1981)。後に踏査したサウジ隊も、同じ見通しを述べている(al-Ansary et al. 2002)。金沢大学サウジアラビア調査団も活動当初からこの遺跡に着目し、数回の踏査を重ねてきた。発掘調査に入ってからは、以下3つの発掘区を設定して、作業を進めている(**図2**)。

3. 第1発掘区の遺構

この発掘区は、集落北西隅で確認された大型の集石を囲うように設置された。集石の南半を半裁発掘した結果、壁面の内側に屑石を詰め込んだマウンド状の大型円形遺構(直径約7m)が検出された。後述する新石器時代集落よりも後の時代の祭祀遺構と考えられるが、遺物や炭化物が出土しなかったため、具体的な年代は

図1　マスィユーン遺跡：位置と景観

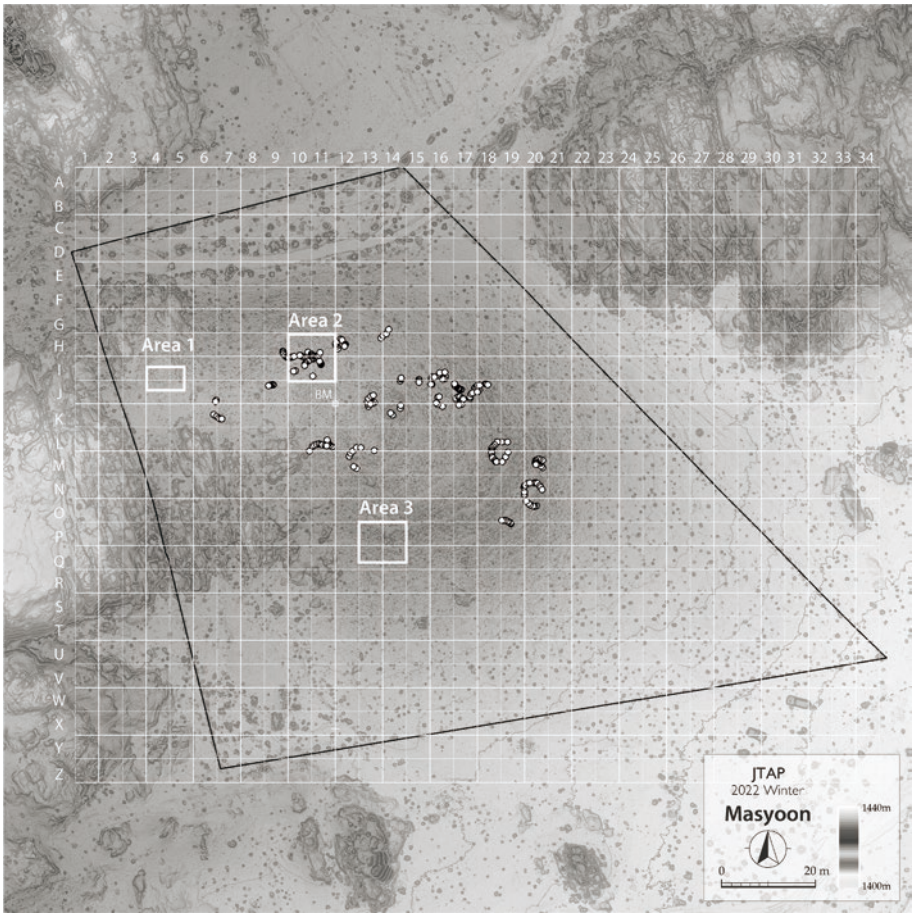


図 2　マスィユーン遺跡：集落の推定範囲と発掘区 1〜3

不明である。

4. 第 2 発掘区の遺構

第 2 の発掘区は、集落中央北端の平坦面に覗く多数の曲線的な石積み壁を対象に設定した。発掘では、レヴァント南部周辺乾燥域の新石器時代集落に通有の「蜂の巣状遺構群(beehive complex)」が確認された(**図 3**)。本例の場合、円形〜楕円形プランを持つ大小 6 件の竪穴石積み遺構(長径約 2〜4 m×床深約 0.5〜0.7 m)が互いに連結して、上記遺構群を形成していた。遺構群の随所で確認された一時的入口封鎖の風習は、この集落が季節的に用いられたことを示唆している。

注目すべきは、201 号遺構の床面東隅で発見された、一次葬人骨 3 体から成る合葬(または追葬)墓である。墓自体は小型で、放棄された住居の床面に浅いピットを掘って埋葬し、周囲を石で囲んで土を被せ、最後に蓋石で覆っただけのシンプルな構造であった。石器数点が出土したが、明確に副葬品と言えるものはなかった。人骨の形質人類学的な調査からは、以下の所見が得られている。1)A〜C 号の 3 体全てが成人の男性であったことは、頭蓋集積に先立つ廃墟を利用した一次葬であったのかもしれない(頭蓋集積は、レヴァント地方の PPNB を特徴づける埋葬風習であり、対象が成人男性に偏ると報告されている)。2)C 号の身体の骨が極端に少なかったのは、埋葬順番が早く、白骨化の状態を確認する際に動かされた可能性も考えられる。3)3 体共に歯冠咬耗が非常に強く、咬合面は平坦ではなく、波打つ、頰側に傾く、カップ状に窪むなどの特徴がみられた。さらに、A 号の頚椎症と特に C 号に顕著であった大きな下顎枝幅なども含めて考えれば、歯を道具とした何らかの作業を行っていたと考えられる。

5. 第 3 発掘区の遺構

第 2 発掘区の南南東 30 m の緩斜面に設定したこの発掘区では、前者とは異質の遺構 3 件が確認された(**図 4**)。南側の大型遺構 2 件(間口約 3.5〜5 m×奥行き約 2〜3 m)は、後背面を高さ 0.5 m 前後の立石を用いた擁壁で土留めし、両側面を地上式の立石壁で囲っただけの、半開放的なプランを持っていた。この遺構では、各種ビーズやその半製品、穿孔用のドリル、研

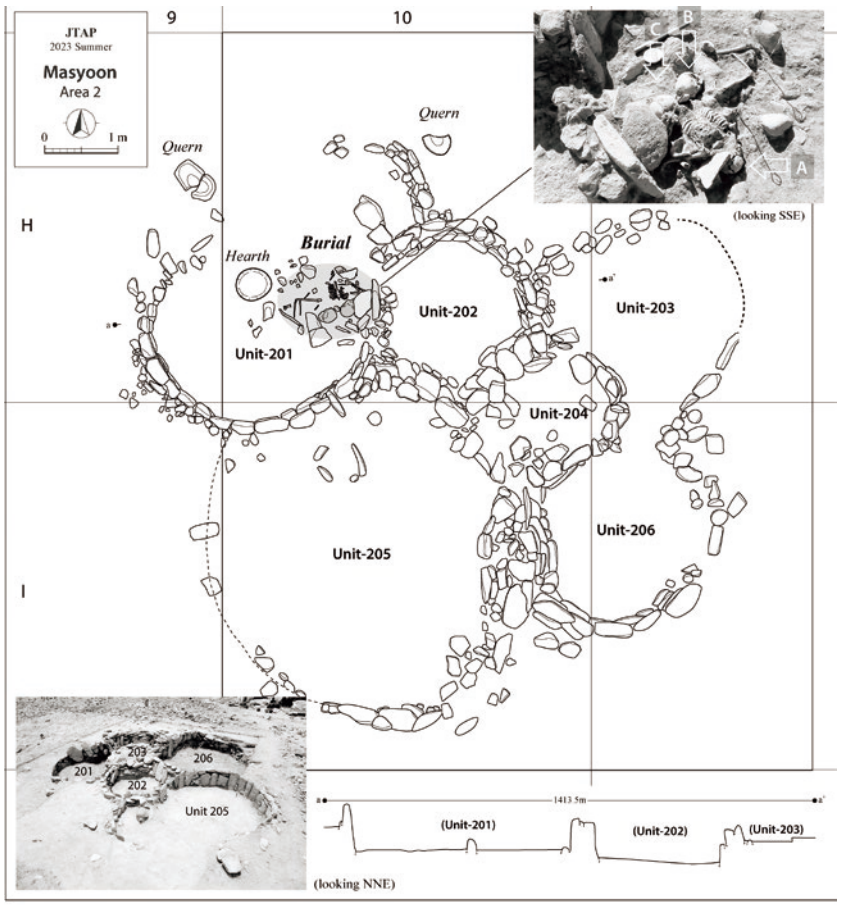


図 3　発掘区 2：蜂の巣状竪穴遺構群と 201 号遺構の埋葬

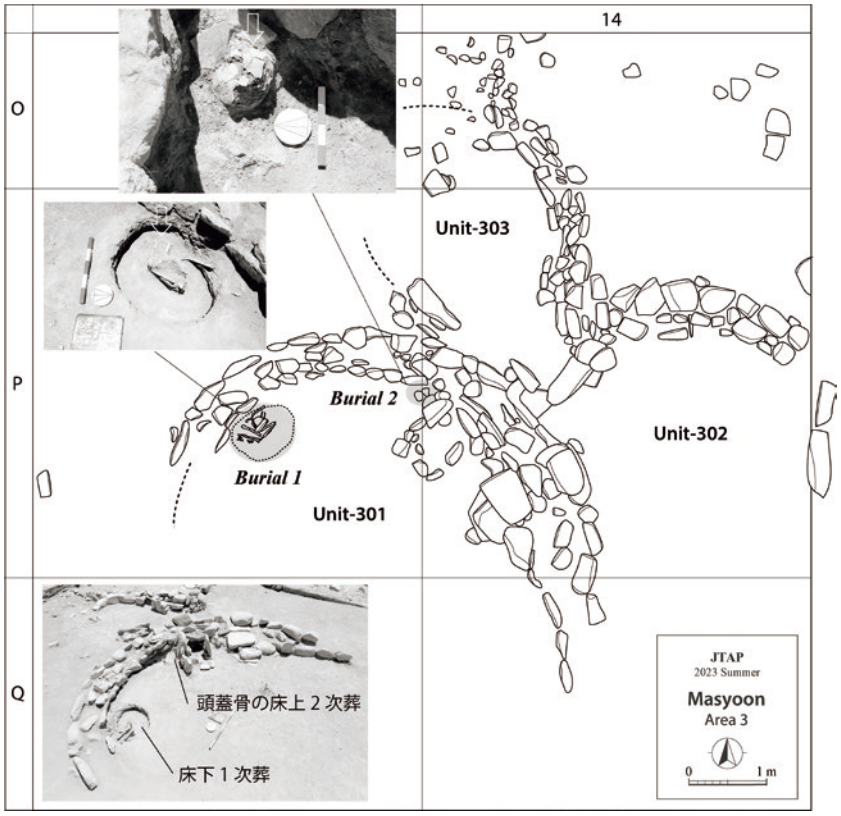


図 4　発掘区 3：半円形・楕円形遺構群と 301 号遺構の埋葬

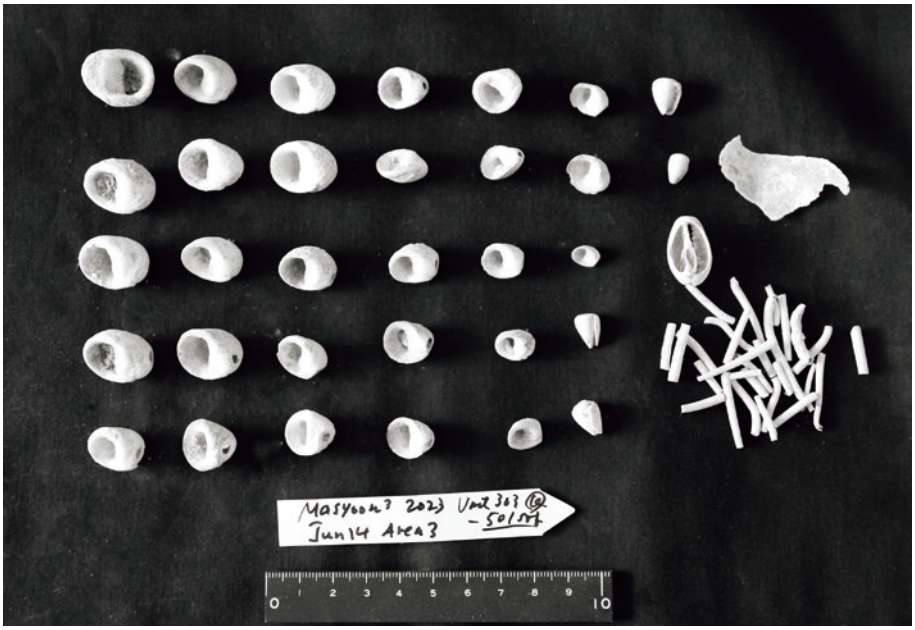


図5　発掘区3：ビーズ原材の各種貝類(左)、ゴカイ棲息管(右下端)

磨用の砥石などが、多数出土した。そのため、装身具製作用のワークショップ(またはそれ兼用の住居)であったと考えられる。一方、ほぼ楕円形のプランと推定される北側の小型遺構からは、ビーズの原材料であるアマゾナイトや各種の貝、ゴカイ類の棲息管(黒住耐二氏の同定による)などが、集中して出土した(**図5**)。隣接のワークショップに付属する倉庫であろう。

301号遺構の後背面擁壁に接して、2件の埋葬が確認された。西側の埋葬が(下顎骨以下の全身骨格から成る)床下一次葬であるのに対して、東側のそれは頭蓋骨のみの床上二次葬であった。形質人類学的な検討はまだ行われていないが、後者は(本来、全身埋葬であったはずの)前者から白骨化後に取り外して別置きしたものと考えられる。だとすれば、これは、レヴァント南部のPPNB中期に特徴的な頭蓋崇拝の一例と言えるであろう。その前処理過程としての床下一次葬を同じ遺構内で確認したことは、意義深い。なお、この頭蓋骨の場合、レヴァント南部の遺跡でしばしば見られるプラスターや貝殻、瀝青などによる顔面復元は、施されていなかった。

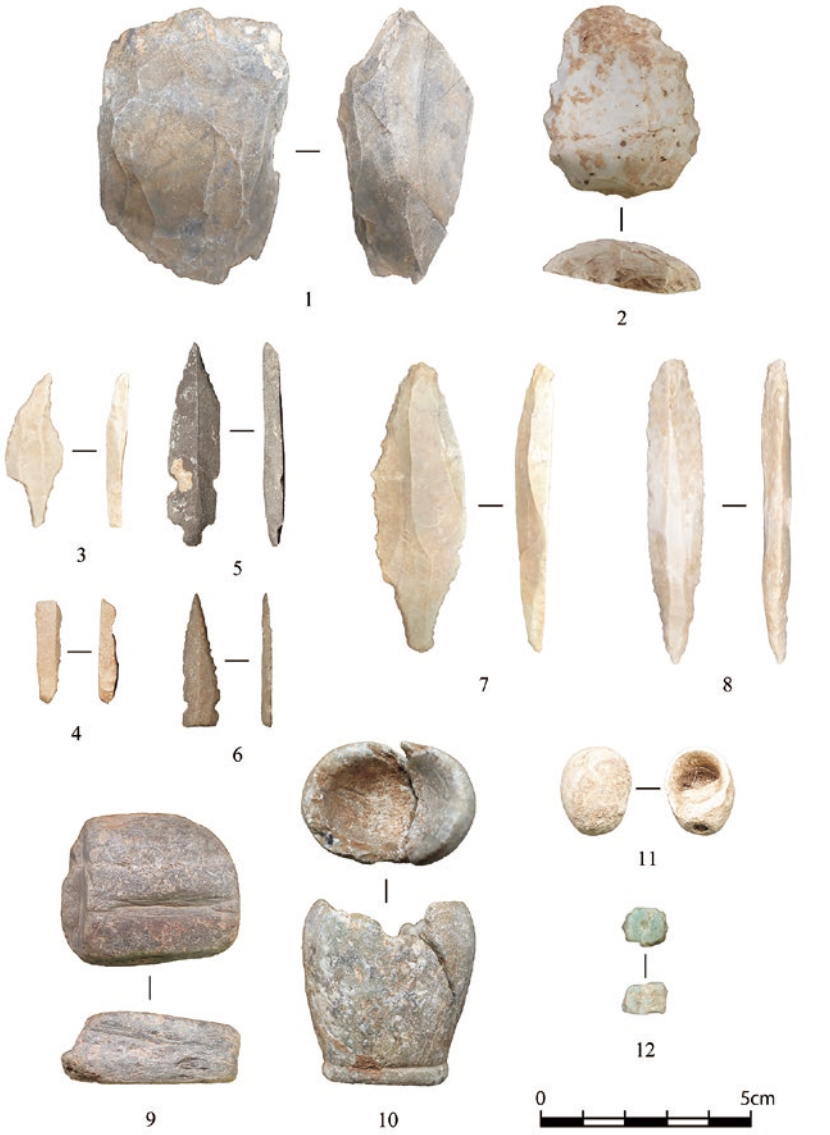
6. 第2・第3発掘区の出土遺物

南北2件の遺構群からは、打製石器、磨製石器、石製容器、装身具とその原材料などが共通して出土した(**図6**)。ただし、打製石器の内容には、遺構群間で顕著な違いが認められた。第2発掘区の蜂の巣上遺構群では、両設打面の円盤状石核が中心で、ナヴィフォーム型石核は未発達。尖頭器では、エル・ヒアム型やヘルワン型が圧倒していた(**図6：5-6**)。一方、第3発掘区の半開放的大型遺構群では、ナヴィフォーム型石核が主流となっており(**図6：1**)、尖頭器ではビブロス型やイェリコ型、アムク型が多数を占めていた(**図6：7-8**)。この違いは、前者の遺構群がPPNB前期、後者の遺構群が同中期に、それぞれ属することを示唆している。前者については前9千年紀前半に収斂する8件のC-14年代も得られており(**図7**)、上記の編年はほぼ確実である。従ってこの集落は、PPNBの前期から中期にかけて営まれ、緩斜面を北から南へと徐々に移転したのであろう。

なお、人骨に加えて、野生の動物骨も多数出土した。詳細な分析はまだであるが、狩猟が盛んであったことは明らかである。一方、石臼・摺石・鎌刃は出土したが、農耕を裏付ける穀物などの炭化種子はまだ検出できていない。

7. まとめ

ヒジャーズ北部では、PPNB中～後期のワディ・シャルマ1号遺跡(Wadi Sharma 1; Fujii et al. 2021)、同後期のアル・アイーナ遺跡(Al-'Aynah; al-Asmari 2012)が、それぞれ調査されている。マスィユーン遺跡の発掘は、アラビア半島新石器化の始まりをPPNB前期にまで引き上げた。同時代の遺跡は、ヨルダン東部の乾燥域(Fujii 2022)やネフド沙漠の西端(Crassard et al. 2013)でも発見されており、レヴァント南部周辺



1. Area3, Q14-101　2. Area2, Unit205-534　3. Area3, 14-101　4. Area3, O14-101　5. Area2, Unit203-501　6. Area2, Unit203-502
7. Area3, P13-101　8. Area3, O14-102　9. Area3, P14-102　10. Area2, Unit205-505　11. Area3, P14-101　12. Area3, P14-102

図 6　発掘区 2～3：出土遺物

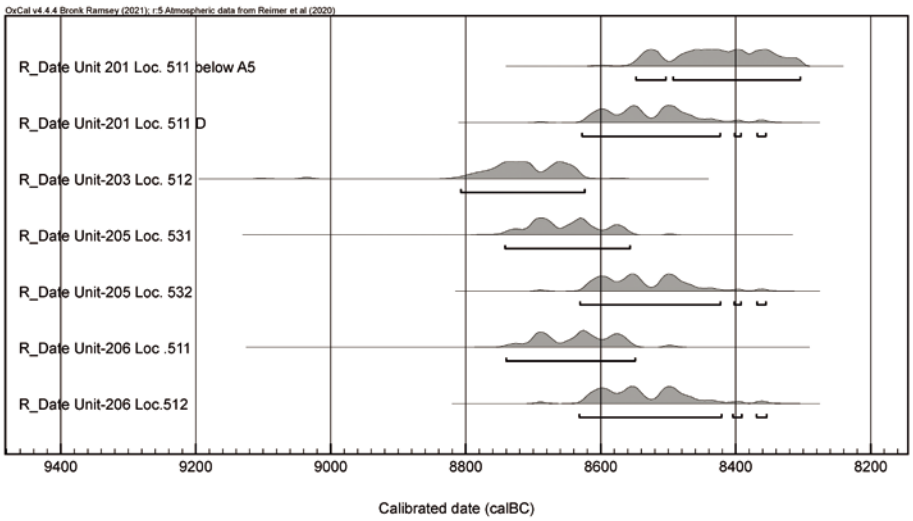


図 7　発掘区 2：C-14 測定年代

乾燥域の新石器化がPPNB前期の段階から同時進行していたことを示唆している。マスィユーンはその起点となる集落遺跡であり、PPNB中期まで継続して居住された稀な遺跡である。次年度の調査では、集落の東半を発掘して、その全体像を明らかにしたい。

■参考文献

・Al-Ansary, A. T., al-Rashid, S. A., Ghabban, A. I., al-Saud, A., Escoubi, K. M., and Khan M. 2002 *Al-Bid': History and Archaeology*. Deputy Ministry of Antiquities and Museums, Ministry of Education, Kingdom of Saudi Arabia.
・Al-Asmari, K. F. 2012 *Oyaynah Archaeological Site: The Study of Neolithic Period Northwest of Saudi Arabia*. University Thesis Series No. 279. Riyadh: King Abdle-Aziz Publication. (in Arabic)
・Crassard, R., M. D. Petraglia, A. G., Parker, A. and eleven other co-authors 2013 Beyond the Levant: First evidence of a Pre-Pottery Neolithic incursion into the Nefud Desert, Saudi Arabia. *Plos One*, 2013, 8/7: e68051.
・Fujii, S. 2022 Harrat Juhayra 202 and the Jordanian Badia Early PPNB: Fresh perspective on the PPNA/PPNB transition in the southern Levant. W. Nishiaki, O. Madea and M. Makoto (eds.), *Tracking the Neolithic in the Near East: Lithic Perspectives on its Origins, development and Dispersal*, 341–355. Leiden: Sidestone Press.
・Fujii, S., al-Mansoor, A. A., Adachi, T., al-Khalifa, K. A. and Nagaya, N 2021 Excavations at Wadi Sharma 1: New insights into the Hijaz Neolithic, north-western Arabia. M. Luciani (ed.), *The Archaeology of the Arabian Peninsula 2: Connecting the Evidence*, 15–41. Vienna: Austrian Academy of Sciences.
・Fujii, S., Almunif, A. I., Kume, S. and seven other co-authors 2023a Archaeological Investigations at Masyoon (NW Arabia): A Brief Report of the First Two Preliminary Seasons. A short field report submitted to the Heritage Commission, Ministry of Culture, The Kingdom of Saudi Arabia.
・Fujii, S., Almunif, A. I., Kume, S. and three other co-authors 2023b Masyoon, the earliest Neolithic settlement in the Arabian Peninsula: A brief report of the third field season, May/June 2023. Unpublished field report submitted to the Heritage Commission, Ministry of Culture, The Kingdom of Saudi Arabia.
・Ingraham, M. L., Johnson, T. D., Rihani, B. and Shatla, I 1981 Comprehensive archaeological survey program: Preliminary report on a reconnaissance survey of the northwestern province (with a note on a brief survey of the northern province), *Atlal* 5: 59–84.
・藤井純夫・上杉彰紀・久米正吾　2022「アラビア半島の遊牧化―サウジアラビア北西部、ワディ・グバイ遺跡群の第6〜7次調査(2021)」『第29回西アジア発掘調査報告会報告集』60–64頁　日本西アジア考古学会。
・藤井純夫・足立拓朗・久米正吾・安倍雅史　2023「アラビア半島の遊牧化―サウジアラビア北西部、ワディ・グバイ遺跡群の第8次最終調査(2022)―」『第30回西アジア発掘調査報告会報告集』133–136頁　日本西アジア考古学会。